Osaka University Knowledge Archive

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】　井村修教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2019, 45, p. 201-205
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71844
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【定年退職教授の履歴および主要業績】

井　村　　修　教授

井村（いむら）　修（おさむ）　教授

1976 年 3 月　九州大学教育学部卒業
1978 年 3 月　九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程修了
1981 年 3 月　九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得退学
1984 年 9 月　九州大学大学院教育心理学専攻研究生修了
1984 年 10 月　琉球大学保健管理センター講師
1988 年 10 月　琉球大学教育学部助教授
1993 年 10 月　琉球大学法文学部助教授
1997 年 10 月　琉球大学法文学部教授
2004 年 4 月　大阪大学大学院人間科学研究科教授
2019 年 4 月　大阪大学名誉教授（予定）

井村修教授は、1981 年 3 月に九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程を単位取得退学した。1981 年 4 月より九州大学大学院教育心理学専攻研究生として在学し、その間、心理教育相談室の副主任を務め、1984 年 9 月に同研究科の研究生を修了した。その後、1984 年 10 月より琉球大学保健管理センター講師、1988 年 10 月に琉球大学教育学部助教授、1993 年 10 月に琉球大学法文学部助教授を経て、1997 年 10 月に琉球大学法文学部教授となった。2004 年 4 月に大阪大学大学院人間科学研究科教授に就任し、臨床心理学分野の教員として教育、研究に貢献し、2019 年 3 月 31 日限り定年退職するものである。なお、2014 年 7 月に、人環博士（心理学）を九州大学より授与されている。

教育・研究に関する功績

臨床心理学分野の教授として、研究科附属心理教育相談室の室員及び室長を務め、同施設の運営に貢献するとともに、臨床心理士の養成に尽力した。また、心理臨床の研究テーマである動作法を院生とともに実践し、公開講座「障がい児者のこころと体をはぐくむ臨床動作法」を 2007 年より 12 年間にわたり主催した。インド共和国やブルガリア共和国においても動作法のワークショップ行い、動作法の国際的普及に貢献した。このような地域と国際社会における活動が評価され、2015 年度大阪大学総長顕彰「社会・国際貢献部門」において表彰された。2009 年度に採択されたグローバル COE「認知脳理解に基づく未来工学の創生」の分担研究者として学際的研究の推進に協力した。大阪大学大学院連合小児発達学研究科の兼任教員として、同研究科の教育研究にも携わった。

もう一つの研究テーマは、筋ジストロフィーの心理的問題や心理支援に関するものである。国立病院機構の研究グループと連携し、数多くの研究論文を発表している。以下

のテーマがその一部である。「筋ジストロフィー患者への個別カウンセリングの試み」「患者・家族の短期サポートグループの実践」「多職種による心理的ケースカンファレンス」「こころのサポートのためのガイドブックの作成」「看護師を対象としたバーンアウト調査」「医師を対象とした病気説明の全国調査」「成人患者を対象とした望ましい病気説明」「DMD 患者の発達障害傾向の調査」「DM1 患者における CNS 障害のアセスメント」「MDHI, INQoL の日本語版の作成」「心理療法士全国実態調査」。筋ジストロフィーという難治性疾患における、臨床心理的問題と心理支援の重要性を指摘し、身体疾患を持つ患者の心理学的アプローチを開拓したことは功績のひとつと考えられる。

なお、琉球大学在職時には、保健管理センターにおいては学生相談に従事し、青年期の心理療法の実践と研究を行っていた。また、教育学部においては、小児の心身症のカウンセリング、法文学部においては統合失調症患者の認知障害の研究を行っていた。2002 年には、日本心理学会から「統合失調症と視点取得能力」の研究で優秀論文賞を授与された。2012 年には、日本リハビリテイション心理学会への貢献から、日本リハビリテイション心理学会学会賞を授与された。

学内及び学外における功績

日本心理臨床学会理事、日本心理学会理事、日本心理リハビリテイション心理学会理事を務めている。また、2018 年 5 月より日本心理臨床学会の副理事長に就任するとともに、第 37 回日本心理臨床学会学術大会の実行委員長として、同大会を開催した。公認心理師養成機関連盟の理事、日本臨床心理士養成大学院協議会の監事として、心理専門職の養成に貢献してきた。またこれまで、日本学術振興会科学研究費の審査委員として、各種研究の審査に寄与してきた。大阪府立刀根山支援学校の学校協議員として、同校の管理・運営に協力してきた。大阪府臨床動作法連絡協議会の代表幹事として、支援学校教員や障がいをもつ子どもたち、その保護者と協力して、動作法の普及発展に貢献してきた。

学内においては、TA・RA 在り方検討ワーキングのメンバーとして、大阪大学の TA 制度の改革に着手し、TF 制度の導入や TA ハンドブックの作成などに尽力した。2014 年度から 2015 年度、2017 年度（20117 年 10 月から 2018 年 3 月）副研究科長として研究科の管理・運営に携わった。2018 年 4 月からは、公認心理師プログラム運営室の室長として、公認心理師養成に関わる業務を行ってきた。そのほか、運営会議のメンバーとして研究科の運営を補佐するとともに、評価資料室室長、教育改革推進室室長、研究倫理委員会委員長などを務めた。

以上、井村修教授は、大阪大学及び人間科学研究科における研究、教育、運営を通じて、その充実と発展に貢献を果たすとともに、臨床心理学と障害児教育や医学との融合的な研究や社会活動通じて、わが国の学術振興に大きく寄与されている。

主　要　業　績

著書

1. 井村修 (1996)「ブリーフサイコセラピーとシャーマン―沖縄のシャーマン《ユタ》の分析から―」，日本ブリーフサイコセラピー学会（編），金剛出版
2. 井村修 (2003)「“心の理論”からのアプローチ」, 横田正夫・丹野義彦・石垣琢麿（編）『統合失調症の臨床心理学』，東京大学出版会
3. 井村修 (2004)「認知心理学研究と心理臨床」, 丹野義彦（編）臨床心理学全書第 5 巻『臨床心理学研究法』，誠信書房
4. 井村修 (2018)「筋ジストロフィーの人のこころと援助」，松井三枝・井村修（編）『病気の人のこころ―医療のなかでの心理学』，誠信書房

他 18 冊

論文

1. 井村修 (2000)「精神分裂病患者の症状特性と“心の理論”」，心理臨床学研究，17(6), 560-569.
2. 井村修 (2000)「絵画マッチングと WAIS-R の絵画完成による精神分裂病患者の照合能力に関する研究」，心理臨床学研究，18(2)，162-171.
3. 井村修 (2001)「臨床心理学研究の動向と課題」，教育心理学年報，40，123-132.
4. 井村修 (2002)「統合失調症と視点取得能力―統合失調症患者と一過性精神病患者の比較を通して―」，心理学研究，73(5)，383-390.
5. Banagayan, S. & Imura, O. (2009) A case study of Dohsa-Hou on an adolescent with cerebral palsy in Japan, *The Journal of Rehabilitation Psychology*, 36(1), 53-70.
6. 井村修 (2010)「統合失調症における姿勢制御に関する文献的検討と展望」，36，大阪大学大学院人間科学科紀要，117-135.
7. 井村修 (2011)「筋ジストロフィー患者への心理的サポート」，Brain and Nerve, 63(11)，1245-1452.
8. Fujino, H., Saito, T., Matsumura, T., Shibata, S., Iwata, Y., Fujimura, H., Shinno. S. & Imura, O. (2015) How Physicians Support Mothers of Children with Duchenne Muscular Dystrophy, *Journal of Child Neurology*, 30(10), 1287-1294.
9. 井村修・藤野陽生・高橋正紀 (2017)「筋ジストロフィーの QOL 自己評価法」，医療，71(10), 404-408.

他 105 編